

# AFTERNOON TEA

## ゲラ、ゲラ、ゲラ・・・ハマりました

千葉大学大学院医学研究院薬理学

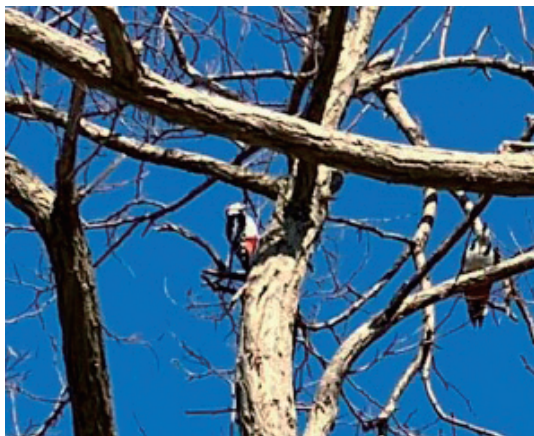
橋本 弘史

獨協医科大学薬理学講座の竹井元先生よりバトンを頂きました。千葉大学大学院医学研究院薬理学の橋本弘史と申します。竹井先生は、私の前の所属先の獨協医科大学生理学（生体制御）講座に所属していた時の同僚です。また、私が大学院生の時に、大変お世話になり、共同研究もさせて頂いた東京大学名誉教授の竹井祥郎先生の御子息でもあります。私は2020年4月に獨協医科大学から千葉大学へ異動しました。新型コロナウイルス感染症の始まりであったため、赴任して1週間足らずで、原則構内への立ち入り禁止ということで、自宅待機になる、大変印象深いスタートでした。2年目は、大学の新棟への引っ越し、3年目は第96回日本薬理学会年会の事務局長ということで、慌ただしく、あっという間の3年間でしたが、これまで以上に良い経験をさせて頂いています。

私がこのAFTERNOON TEAをお引き受けするのも、2度目になります。前回は、産業医科大学第1生理学に所属していた時の2015年でしたが、

異動して所属先が変更になっていけば、2度目でも良いとのことでしたので、今回は、この数年、私が嵌っていることを書いてみようと思います。

皆さんも同じだと思いますが、私もコロナ禍以降、外出する機会が減りました。元々、歩くことが好きだったのですが、特に、冬の寒い朝に歩くと、最初は寒くて辛いのですが、歩いているうちに身体も温まり、冷たい空気がとても気持ち良く感じます。ちょうど、2年前の冬でしょうか、歩いて、休憩していると、上から「コン、コン」という音とともに、何かが降ってきます。見上げると、アカゲラが木を突いていました。そう、啄木鳥です。啄木鳥が木を突いているのを間近に初めて見ました。以後、啄木鳥の木を突く音や、鳴く声が気になり、当初は、コゲラ、アカゲラ、アオゲラ、クマゲラなどの啄木鳥を探すことに夢中になっていましたが、他の鳥もたくさんいることに気がつき、いつの間にか、歩きながらのバードウォッチングが楽しくなっていました。おそらく、それまでも鳥の声を聞いていたと思いますが、全く気にすることもなかったもので、こんなにもたくさん身近に鳥がいたのかと驚きました。ちょうど、冬から春にかけては、まだ葉も少なく、鳥の音が聞こえると、鳥の存在を確認しやすく、バードウォッチングに最適な季節でもあったと思います。それからは、単眼鏡を片手に、歩くようになりました。ここで気をつけないといけないのは、小さい公園とか、住宅の多い場所で、バードウォッチングをすると、怪しい人になるので、私は、単眼鏡を使用してのバードウォッチングは山の中限定にしています。余談ですが、昨年のNHK大河ドラマの「鎌倉殿の13人」では、啄木鳥の音が入っているシーンも多くあり、私はドラマよりもその音が気



最初に間近に見たアカゲラ

になり、細かい演出だなど、感心しながら見ていました。

自分の中でも何が楽しいのだろうと思いながら、書いてきましたが、おそらく、自然の中で、鳥の声だけを頼りに、その声の主を予想し、姿を

見つけて正解を得た時の何とも言えない達成感が楽しいのかなと思います。皆さんも、ゲラ探しから、バードウォッチングを始めてみては、如何でしょうか？



## 連携活動に支えられて

鹿児島大学農学部

加治屋勝子

鹿児島大学農学部の加治屋勝子と申します。山口大学の木田裕之先生よりバトンを受け取りました。私は2004年から2013年までの約10年間、山口大学医学部分子細胞生理学講座（当時：小林誠教授）に勤めておりましたので、隣の講座の木田先生とはその頃からのご縁です。鹿児島に来てからもう10年が経ち、引越しの日はドカ灰（どかばい：桜島〔写真〕の噴火による火山灰の降灰量が半端ない様子）で、段ボールを運んでいるのか灰を運んでいるのかわからない状況だったな、と当時を思い出しました。私は鹿児島県出身ですが、降灰地域には住んだことが無く、鹿児島市ではおなじみの克灰袋（こくはいぶくろ：灰専用のゴミ袋）の使い方もわからない有り様で、本当に暮らしていけるのか、と心配していましたが、慣れとは恐ろしいもので、噴火の空振にも全く動じなくなりました。

現在、私は、血管系の病気を予防するために食を上手く使えないかと考え、生体分子の機能解析や農産物の分析をおこなっています。研究内容については生理学会での研究発表等の機会に譲るとして、今回は私を取り巻く環境について記したいと思います。農業・畜産業・水産業に支えられている鹿児島県にとって鹿児島大学農学部は地域の期待を背負っており、地域連携活動は切り離すことができません。大学の産学連携コーディネーターを通して、頻繁に地元企業からの面談申込があり、企業との共同研究も非常に多くなっていま

す。ただ「大学の先生は何でもできる」という思い込みがあり、引き受けられないことを説明するのが一苦勞です。生産者や自治体を交えた会議等にも招集され、これまで知りえなかった出会いや体験も多く、焼酎で乾杯する懇親会にもすっかり慣れました。これまでは自分の興味の赴くままに研究を突き詰めてきましたが、現在は地域の課題を研究のチカラで解決していく過程も非常に面白いと感じています。鹿児島大学アカデミーロータリークラブが設立されてからは産学連携活動が更に活発になりました。チャーターメンバーは、産業界から半分、大学関係者が半分で構成されており、異分野が会う場として実際に様々なコラボが生まれています。大学関係者は大学長を名誉会員として理事や各学部・研究科の所属長で構成されており、そんな中になぜ私が指名されたのかは未だに不思議です。中学生や高校生向けの理工系キャリアパスプロジェクトなどを担当しているので、イベント好きだということがダダ漏れていたのかもしれませんが、以前から取り組んでいる高大連携事業の一つとして、文部科学省よりスーパーサイエンスハイスクールの指定を受けた高校の生徒達を受け入れています。一緒に研究し、特許を出願したり、製品化したり、論文を出したり、高校生に学会発表してもらったり…と、高校生と大学生がお互いに刺激しあって活動してきました。また、鹿児島の離島には高校がないところもあり、中学生のうちに将来に向けての大きな決断をしな



ければならない地域が存在しますので、離島の中学校との連携も重要な位置づけにあります。自分が中学生の時はのほほんと過ごしていたので、離島の進路問題の深刻さを知り、愕然としました。子供たちの選択の幅を広げるため離島への出張講義は多く、大学進学についてはもちろんですが、私は大学認定ベンチャーを設立しているので起業の話をすることも多くなっています。研究室の中だけで研究していた頃には起業するなんて考えも及びませんでした。地域や企業の方々と活動していく中で自分たちの研究成果をどうやって活用していけるだろうかと考える機会が増え、一念発

起したのです。

最近大学のダイバーシティに関する仕事もしており、特に女性研究者や若手研究者の活躍しやすい環境づくりを担当しています。…が、これがまた難しい。こちらは国際共同研究している海外の大学と連携しており、アイデアや要望はたくさん出しますが設備や規則や金銭的な障壁があり、そう簡単には変わらないのです。先人たちのご苦労が痛いほどわかりました。そして、子供を4人産んだことも、異動のために夫に仕事を辞めてもらいついてきてもらったことも、研究界では少数派であることを知り、周りの方々のご理解に深く感謝しています。近い将来、私自身が親の介護をしながら研究をする日も来ると思います。研究を続けていける環境の整備が、自分のためでもあり後に続く研究者にとっても役に立つと思い、声を上げている今日この頃です。

環境の変化は、臆することもあります。新しい気づきもあり、私にとっては良いキッカケとなりました。鹿児島で研究を続け、生理学会で近況を報告することが、これまでお世話になった方々への恩返しだと思っています。



## Fly me to the moon

東京慈恵会医科大学細胞生理学講座宇宙航空医学研究室

暮地本宙己

会員の皆様はじめまして、東京慈恵会医科大学細胞生理学講座 宇宙航空医学研究室の暮地本宙己と申します。同じ講座の瀬谷大貴先生からバトンを頂きましたので、この度ご寄稿させていただきます。瀬谷先生とは実験室を同じくしておりますが、落ち着いた雰囲気醸しつつ、ユーモアのある語り口で笑わせてくれる、素晴らしいベンチメートです。実験上のアドバイスを頂くことも度々で、いつも感謝しております。

私は2006年に旭川医科大学を卒業しました。大

学在学中から基礎医学研究者を志望していたので、研修医を終えた後はすぐに旭川医科大学大学院に入学して、解剖学講座の所属となりました。大学院修了後は解剖学講座教員として、2016年まで下垂体内分泌細胞の電子顕微鏡解析を中心とした研究を行っていました。2017年からは帯広畜産大学に異動し、保健管理センターで学校医・産業医として勤務しながら、炎症性腸疾患や原虫病に関するモデル動物実験系を用いた研究を行いました。2019年から現在の東京慈恵会医科大学に所属

しております。基礎医学研究の世界に足を踏み入れてからは解剖学分野での活動歴が長く、その後もいくつかの分野を渡り歩いておりますが、生理学会には多様なバックグラウンドを許容するオープンな気風があり、温かく受け入れて頂いていると感じております。

現在、私は生命への重力の影響の研究に携わっております。もともと細胞が重力を受容する仕組みには強く興味を持っており、いつかこの研究に専念したい、と思っていました。いま慈恵医大の宇宙航空医学研究室に所属させて頂いて、細胞の重力受容機構の研究に打ち込める環境にあることは、本当に幸せなことでもありがたく感じています。

近年の有人宇宙領域は大変活発化し盛り上がり

を見せています。つい先日には、月探査を今後の大きなミッションと位置付ける JAXA が、新たな宇宙飛行士を選抜したという報道発表がありました。バージンギャラクティックやブルーオリジン、スペース X といった世界的企業による民間宇宙飛行もここ数年で急速に増えており、今後さらに多くの人々が宇宙に行ける日が来るでしょう。宇宙で健康に過ごすための宇宙医学の重要性が増していくものと思います。1G より小さな重力が長期的に細胞に与える影響を調べるためには、国際宇宙ステーションなどの軌道上人工衛星や月面での実験を行う必要があります。宇宙関連のニュースを見ながら、宇宙での実験のチャンスを模索する毎日です。